

【基本情報】

配置人員について

産婦人科専門医(うち、生殖医療専門医)	1名(0名)
泌尿器科専門医(うち、生殖医療専門医)	0名(0名)
看護師	5.4名
胚培養士/エンブリオロジスト	3名
コーディネーター	0名
カウンセラー	1名

治療内容(2020年)について

治療の種類	年間実施件数	費用
人工授精	564	27,000円
体外受精+新鮮胚移植	3	350,000~450,000円
凍結融解胚移植	286	200,000円
顕微授精	107	11,000円
精巣内精子回収術	—	—

実施事項について

自医療機関の不妊治療の結果による妊娠に関して、公益社団法人日本産科婦人科学会における個別調査票(治療から妊娠まで及び妊娠から出産後まで)への登録を行っている	はい
自医療機関で分娩を取り扱わない場合には、妊娠した患者を紹介し、妊娠から出産に至る全ての経過について報告を受ける等、分娩を取り扱う他の医療機関と適切な連携をとっている	はい
医療安全管理体制が確保されている	
① 医療に係る安全管理のための指針を整備し、医療機関内に掲げている	はい
② 医療に係る安全管理のための委員会を設置し、安全管理の現状を把握している	はい
③ 医療に係る安全管理のための職員研修を定期的実施している	はい

④	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策を講じている	はい
⑤	自医療機関において保存されている配偶子、受精卵の保存管理及び記録を安全管理の観点から適切に行っている	はい
⑥	体外での配偶子・受精卵の操作に当たっては、安全確保の観点から必ずダブルチェックを行う体制を構築しており、ダブルチェックは、実施責任者の監督下に、医師・看護師・胚培養士／エンブリオロジストのいずれかの職種の職員 2 名以上で行っている	はい
	倫理委員会を設置している ※委員会構成については、公益社団法人日本産科婦人科学会の会告「生殖補助医療実施医療機関の登録報告に関する見解」に準ずる	はい
	公益社団法人日本医療機能評価機構の実施する医療事故情報収集等事業に登録・参加している	いいえ
	不妊治療にかかる記録については、保存期間を20年以上としている	はい
	里親・特別養子縁組制度の普及啓発等や関係者との連携を実施している	いいえ

【治療情報】 ※2019年1月から2019年12月まで

新鮮胚(卵)を用いた治療実績

	IVF-ET	Split	ICSI	合計
採卵総回数(回)	19	8	37	64
移植総回数(回)	0	0	6	6
妊娠数(回)	0	0	1	1
生産分娩数(回)	0	0	1	1
移植あたり生産率(%)	0	0	16.7	16.7

IVF-ET: 採卵により得られた全ての卵子に対し、体外受精を実施

Split: 採卵により得られた卵子に対し、体外受精と顕微授精に分けて実施

ICSI: 採卵により得られた全ての卵子に対し、顕微授精を実施

凍結胚を用いた治療実績

	融解胚子宮内移植
移植総回数(回)	131
妊娠数(回)	44
生産分娩数(回)	35
移植あたり生産率(%)	26.7

来院患者情報(2020年1月から2020年12月までに体外受精・顕微授精・胚移植を行った患者)

25歳未満	2名
25歳以上 30歳未満	16名
30歳以上 35歳未満	44名
35歳以上 40歳未満	90名
40歳以上 43歳未満	45名
43歳以上	24名

治療方針

- 治療のステップアップに関しては、治療歴、年齢、精子の状態を考慮し、アドバイスをを行い、体外受精教室を月に1回程度開催し、夫婦ともに参加され、内容を十分に理解してもらった上でステップアップするか判断をしてもらう
- 一番重要なこととしては患者様の状況(年齢、AMHや精子の状態等)をしっかりと理解した上で、情報提供し、治療を患者様に選択していただく
- 調節卵巣刺激法に関しても年齢、AMH等更に通院等の条件を考慮し、治療法の説明をした上で刺激法を選択してもらう